



## 「令和4年度学校運営協議会」スタート！

水泳の授業も始まり、一学期もいよいよまとめの時期となりました。本年度は4月以降、学級懇談会やオープンスクール、そして体育大会等学校行事を、慎重に少しずつ進めてきました。6月20日には、前年度コロナ禍により開催できなかった「学校運営協議会」を実施しました。

伊丹市では、市立の全学校が「学校運営協議会」を設置した、『コミュニティ・スクール』となっています。本校でも、15名の委員の皆さまとともに、学校教育活動等について話し合い、学校教育目標の達成を旨としているところです。本年度新たに選出された委員も4名おられ、今後ご意見を聞きながら教育活動を進めてまいります。

また同日開催しました第2回の協議会は、毎年恒例の「学校運営協議会委員と教職員との交流会」を開催いたしました。

当日は教育委員会からも参観に来られ、約30人ほどの話し合いとなりました。本当にたくさんの方々が、コロナ禍でも子どもたちのこと、学校教育のことを考えてくださっていることに感謝しております。

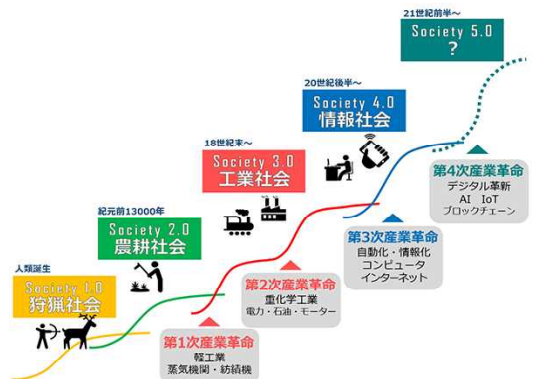
学校運営協議会としての取り組みについては、今後学校運営協議会だより【笹っ子応援団】でもお知らせいたします。



## 全国的に進む情報教育 よりよく活用するために

国の「GIGA スクール構想」が進み、伊丹市でも児童一人一台のタブレット活用が進んできました。導入以来この2年間で子どもたちの学習は大きく変容し、タブレットを活用する姿は、日常の風景となってきました。子どもたちがタブレット操作に慣れるにつれ、インターネットに関する問題も出はじめ、情報モラルやネットに関係する知識・技能の習得が喫緊の課題となってきました。

Society5.0<sup>(注1)</sup>時代に生きる子どもたちを見すえ進められてきた構想ですが、注意点があることも忘れてはなりません。今一度、タブレットを活用したより適切な教育の在りかたを大人も含め見直す時だと考えます。インターネットの世界は、「海」に例えら



れることがあります。広大で底知れぬ深さのある海を“安全に”に泳ぐためには、「海の“正しい”泳ぎ方」を知らない危険な目に遭います。インターネット活用もまさに同じで、子どもたちは「インターネットの“正しい”使い方」を学ぶ必要性があります。



### インターネットの“正しい”使い方

では、「インターネットの“正しい”使い方」とは、どんなことなのでしょう。よく、インターネットを使う時、「～すると怖い目に遭うよ。」「～をすると危ないよ」といった危険性のみが伝えられることがあります。もちろん、インターネット利用にあたる危険性を子どもたちに伝えることは、大切です。しかし、危険性ばかりを伝えても、どうすれば回避できる

のかを知らなければ、適切な使い方を学ぶことはできません。

してはいけないことや良くないことなど、『守らなければならないこと』は正しく、はっきり伝えることが大切です。そして同時に「より良く活用していくにはどうすれば良いだろう」「こんな便利な使い方もあるんだ」といったことも伝えていくことも必要です。

子どもたちは今まさに、インターネットという大海原を泳ぎ始めたばかりです。無限大の可能性のある子どもたちから、可能性を引き出せるインターネットの世界を“正しく”使うことは、一朝一夕にできることではありません。

現在、伊丹市で活用しているタブレット端末（iPad）では、インターネットブラウザ（Safari）から、YouTubeを検索し、閲覧することが可能となっています。もちろん伊丹市教育委員会によるフィルタリングサービスで、【成人向けや暴力、違法行為などの web サービスや不適切な動画コンテンツ】を閲覧することのないよう、制限をかけていただいています。

しかし、一口に「YouTube」と言っても、子どもたちの好奇心をあおるものばかりではなく、文部科学省、地方自治体、公共機関をはじめ、子どもたちの学びを“より促進させる”、探究的な動画や有益な情報もたくさんあります。残念ながらフィルタリングのすき間から、一部子どもたちにとって望ましくない動画が見られることも事実です。



そこで、一律にすべてフィルタリングし、閲覧を完全に停止させるのではなく、インターネット全般的な問題としてとらえ、情報モラルやデジタルシチズンシップ<sup>注2</sup>を学んでいく必要性があるとも考えています。

これからのデジタル社会を生き抜いていく子どもたちにとって、デジタルと向き合い、より良く活用するにはどのようにするべきなのかを学ぶのは重要なことです。これからも学校で指導をすすめていきますが、ご家庭でも子どものネット活用に留意していただきながら、健全育成の推進にお力添えをくださいますようお願いいたします。（情報教育担当：中山貴嗣）



Society 5.0<sup>注1</sup> … AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな未来社会の姿。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、人類社会発展の歴史における5番目の新しい社会の姿

デジタルシチズンシップ<sup>注2</sup> … 自分たちの意思で自律的にデジタル社会と関わっていく考えの一つ